

1. 研究課題名

「大型類人猿の絶滅回避のための自然・社会環境に関する研究」

2. 研究代表者氏名及び所属

西田利貞((財)日本モンキーセンター)



3. 研究実施期間

平成18年度～平成20年度

4. 研究の趣旨・概要

大型類人猿(チンパンジー、ボノボ、ゴリラ、オランウータン)は、熱帯雨林という資源豊かなエコシステムの要となるキーストーン種(*)であり、彼らの保護が結果的に多くの野生生物の保護につながるアンブレラ種(**)でもある。また一般の関心が高く、人々の目を熱帯エコシステムの保護に向けさせるフラッグシップ種(***)としても重要である。同時に、彼らはヒトが生物進化の産物であることを示す生き証人であり、ヒトの生物学的背景を教えてくれる。近年、人間による生息地の劣化・分断化、商業目的による狩猟や違法取引の増加、地域紛争、感染症の流行、さらには産地国の経済悪化などにより、大型類人猿は激減し、このままでは21世紀以内に絶滅する恐れがきわめて高くなっている。

本研究は大型類人猿の絶滅を回避することを目標に、類人猿の密度推定法、生息地となる森林資源のモニタリング、糞尿などのサンプルをもとにした大型類人猿の健康状態のモニタリング、植林による森林再生、生息地近辺の人口動態の把握および意識調査等の手法を用いて、地域の実情に根ざした具体的な大型類人猿保護計画の策定と実行、並びに、国際的な大型類人猿保護の枠組み(UNESCO、UNEP)の保護政策に資する、ボトムアップ型大型類人猿保護の政策提言およびその実現のための施策を提言することを目指すものである。

これにより、生息国における法の整備と適切な執行、地域住民への教育啓発活動による保護意識の育成、地域の実情に即した代替産業の導入と育成、住民の疾病の防止策、伝統文化と調和した自然保護活動の促進などの貢献が期待される。

*:1つの生態系を維持し更新する上で重要な働きをする動植物。

** :その種を保全することによって、他の多くの動植物が保全されるような重要な動植物。

*** :人々によく知られてはいるが希少で、生物多様性保全の宣伝役として役立つ動植物。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 大型類人猿の分布と密度に関する研究(林原生物化学研究所類人猿研究センター)
- ② 地域住民による森林利用の実態と環境変動についての研究(明治学院大学)
- ③ 大型類人猿の疾病と人間関係が大型類人猿の健康状態に与える影響についての研究(財団法人日本モンキーセンター)
- ④ 植林による森林再生と分断化された生息地の連結についての研究(京都大学霊長類研究所)
- ⑤ エコツーリズムとコミュニティ・コンサーベーションによる環境保全の研究(京都大学大学院理学研究科)

6. 研究のイメージ

